

令和元年度千葉県農政審議会議事録（概要）

1 日 時 令和2年1月30日（木） 午後1時30分から3時30分まで

2 場 所 千葉県文書館 多目的ホール

3 出席者 [審議会委員] ※敬称略

酒井茂英	林 幹人	木名瀬 訓光	菊岡 たづ子
プリティ長嶋	北村 新司	林 茂壽	伊藤 はつ子
林 和雄	間渕 誠一	根本 実	斎藤 昌雄
浅井 悦子	小倉 朋子	大江 靖雄	(15名)

[県職員]

農林水産部長 農林水産部流通販売担当部長 農林水産部次長（農）
 農林水産部次長（農土） 農林水産部次長（農） 農林水産政策課長
 団体指導課長 生産振興課長 流通販売課長 担い手支援課長
 農地・農村振興課長 安全農業推進課長 耕地課長 畜産課長

4 議 題 (1) スマート農業の推進について

5 報 告 (1) 台風第15号、19号、及び10月25日の大雨の被害と
 支援対策（農業用ハウスの復旧）について

(2) CSF 対策について

(3) 三島ダムの漏水対策について

6 審議内容

発 言 者	発 言 内 容
司会 (農林水産政策課政策室長)	<p>【開会】</p> <p>審議会の成立、委員16名のうち、15名出席、審議会の設置根拠の千葉県行政組織条例の第32条第2項の規定により、本審議会は成立している旨、報告。</p>
農林水産部長	<p>(あいさつ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1月15日に国から公表された平成30年農業産出額は、4,259億円、平成29年より441億円減少し、理由として野菜、果実などの園芸作物が、平成30年の台風の影響と暖冬の影響によりで、価格が下落したことが原因とされている。 ・ 県の農林水産業では、昨年秋の台風とか大雨は、自然災害としては過去最大級の被害で、現在、復旧・復興が進められている。 ・ 農業の現状は、農業センサスによると農家戸数が平成7年から平成27年では約半分まで減少、TPP11や日米貿易協定で、豚肉、牛肉など輸入品の増加、担い手の高齢化、少子化による国内労働力

発 言 者	発 言 内 容
	<p>の不足など厳しい現状にあることを説明した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・畜産業での CSF（豚熱）隣県の埼玉県に広がり、千葉県でのワクチン接種への準備作業を進めていることを説明した。 ・本日の議題は、高齢化等、労働力不足が深刻化している中、厳しい農林水産業の現状を改善していく手法の一つとして、自動化・超省力化等のスマート農業を取り上げ、千葉県の推進方針策定に向けて、議題としたことを説明した。
司会	(委員を紹介)
司会	<p>【議長の選出】 (千葉県行政組織条例第32条第1項により、議長は会長)</p>
議長	<p>農業厳しい状況であるものの、スマート農業は、新しい一つの可能性に繋がると考えており、検討お願いしたいと挨拶が行われた。</p> <p>【議事録署名人の選任】 千葉県農政審議会運営等規程第5条第3項の規定に基づき、間渕委員、伊藤委員を指名した。</p>
司会	(傍聴希望はないと報告)
農林水産政策課長	<p>【議事】 (資料によりスマート農業の推進方針について説明)</p>
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ドローンによる農薬散布やAIを活用した収穫ロボットについて、実用段階にきているのか教えてほしい。 ・トラクターを自動化するには、大規模な区画のほ場が前提条件であり、今後も整備を進めていく必要がある。 ・費用対効果が一番大事になってくるので、推進方針に具体的に記載していく必要がある。
担い手支援課長	<p>農業へのドローン使用は、センシング技術や薬剤散布に使用され、スマート農業の技術の中で、普及段階となっており、県内54か所で使用されている。</p> <p>収穫ロボットは、まだ研究開発の段階であり、農業分野のAIは、開発する人材育成の取り組みが始まった状況であると回答した。</p>
農林水産政策課長	<p>自動化には前提条件に圃場の整備があり、進展等を踏まえ検討していく。また、高コストの機械等は、農業者が導入しやすい低コスト機械の開発が進むと考えられ、県では導入効果等を実証し、推進方針を検討していく。</p>
委員	<p>スマート農業の普及を進めるため、県内1か所か2か所程度でなく、実演などを広く行ってもらいたい。多くの人に見てもらおう機会を作ってほしい。</p>
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・若い人達も数年後に導入したいと考えられるよう、資料にある日本型の豚舎洗浄ロボットなど、研究を重ねて、導入の障壁となる価格や機能の見通しが分かるようにしてもらいたい。

発 言 者	発 言 内 容
	<ul style="list-style-type: none"> ・豚舎洗浄ロボットなど、導入適正規模を教えてください。
畜産課長	<ul style="list-style-type: none"> ・洗浄ロボットは、実用化に向けた試験中で、養豚農家にアンケートを取り、価格帯や機能について、ニーズ調査をし、結果が開発に反映できるよう企業と検討しているところです。 ・規模等について、試験中です。
議長	<p>新しい技術の導入の際、技術研究と経営研究の連携が重要で、効果として経営の研究者による評価と担い手のターゲットを明確にする必要があると思うが、どう対応するのか。</p>
担い手支援課長	<p>導入の費用対効果等を評価するため、平成30年度7地区、令和元年度6地区で試験しており、農業者への試験結果の周知等の取組を実施していると回答した。</p>
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・技術革新が目まぐるしい分野であることから、通常の策定スケジュールでは、遅れてしまう懸念があるので、スピード感を意識して実施してもらいたい。
農林水産政策課長	<p>日進月歩のスマート農業の技術で、大きな方向性を示す指針のほか、実施計画、個別具体的な施策を作る予定としており、策定に当たってはスピード感を持って実施していきたい。</p>
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・費用対効果を議論するのではなく、農業者の所得を上げることが大事。スマート農業は手段であり、どのように儲かる農業にして、所得を上げていくのかという議論が先にすべきである。
農林水産政策課長	<p>スマート農業は農家の方が所得を向上させる一つの手段だと考えており、経営の視点を、方針に盛り込んでいく。</p>
議長	<ul style="list-style-type: none"> ・高知県では、大学と共同して、ハウス全部をコンピュータにつなぎ、生産を最適化し、収益目標を達成する技術開発と新規ビジネスに向けて、県も大学も力を入れている。 ・農研機構のスマート農業関連のプロジェクトで、農業生産法人などの生産から流通までの業務形態になると、経営全体の効率化が進み大幅なコスト低減が実証されている。 ・スマート農業は、単なる技術導入でなく、農業全体を視野に入れた検討をしていく必要がある。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・機械について、シェアするパターンや導入の優先順位があるか、具体的なところを教えてください。 ・モデルケースの記載やメリットとデメリットの記載が必要。また、環境の変化で栽培品目なども変化してくると思うので、長期と短期での詳細なデータを明確にした方がいい。
農林水産政策課長	<ul style="list-style-type: none"> ・シェアについて、水稻の機械等は可能ですが、施設園芸については、難しいと考える。導入順位は、生産者の意見を聞きながら、施策策定の際に優先順位を検討していく。

発 言 者	発 言 内 容
	モデルケースなどは、今後、実証していくとともに、詳細な数値等については、計画策定の中で、検討していく。
議長	<p>数値化は、新しい技術は実証とシミュレーションで効果と費用を見積もっていく形になる。</p> <p>数値化などの経営評価に当たっては、研究者による評価を行い、正確な費用対効果等の計画立案する必要がある。</p>
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・70代、60代の人達は難しく、若い人が対象となるが、機械の国内価格が高すぎ、使いやすい価格の提示がないと導入できない。 ・導入時の支援だけではなく、経営面も含めて継続的な支援が必要で、支援人材の育成をお願いしたい。 ・千葉県酪農のほとんどは家族経営で、周囲に住宅等あり規模拡大も難しい中、搾乳ロボットや分娩装置の導入効果があるか疑問があり、実情に合ったものを考えていただきたい。
農林水産政策課長	低価格化と機能を絞り込んだ機械の開発が進められているので、今後、実証しながら費用対効果などを示していきたい。
議長	導入に当たっては、計数管理を適正に行うことが大原則。埼玉県で20頭規模で搾乳ロボットを導入し、乳製品加工販売も始めることで、十分採算がとれている事例があり、スマート農業では、経営資源をどこに投入し、どう利益を上げていくかという、経営計画を立てるということが重要になる。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・資料で年間の農業所得が198万円という記載があるが、一人当たりのものかどうか。 ・資料の現状のデータは、平成29年のものもあり、本当に直近の千葉県の現状を表していないのではないか。
農林水産政策課長	農業所得の金額は、1経営体の収入となる。現状のデータについては、直近の最新のデータが、農業センサスなどで、その後のデータがないものであると回答した。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・スマート農業を進めることで、日本の食料自給率が上がるという考えはあるのか教えてほしい ・日本は家族農業が中心で、高価な機械の導入は厳しいため、リース、レンタルを考えているのか教えてほしい。
農林水産政策課長	スマート農業は、労働力対策、耕作地を維持する一つの手段と考えており、食料自給率を維持するという観点で効果はあると考えている。リース、レンタルについては、実証試験を実施する中で、検討項目の一つとして考えていきたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・農業所得について、千葉県のデータがあれば教えてほしい。 ・一番大事なのは儲かる農業にすること。畜産の利益率をどうあげるかなど、農業で儲けるにはどうすべきかの議論がないと、手段の議論だけの片手落ちであり、県は施策を示さなければならない。

発 言 者	発 言 内 容
農林水産政策課長	<p>統計は全国のデータで、都道府県別のデータがない。</p> <p>県の振興計画では所得を向上させることを第一の目標としている。儲かる農業につながるようスマート農業を検討していきたい。</p>
議長	<p>県の振興計画に関わることで、本日決めることは難しく、今後、振興計画も視野に入れて、スマート農業の指針を策定していただきたい。</p>
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の狭い農地で効率よく農業をするには、家族農業が基本であり、政府の食料・農業・農村基本計画においても、家族農業が見直されてきている。 ・昨年の台風で甚大な被害を受け、さらに暖冬の影響で価格が下落し、再生産価格を下回るなど、担い手が一番大変な状況となっている中、議論の方向性が、ずれていると思われるので、机上の空論とならないよう、現場・地域の声をもう少し聞いて進めてほしい。
農林水産政策課長	<p>御指摘を重く受け止め、現場の意見を聞いて、指針等を策定していく。</p>
委員	<p>畜産も農業も水産業も厳しい現実があるが、日本の果物とかお米はすごく品質がよく、実力は高いので、一生懸命頑張っている人が利益を得られるようなシステムになるようお願いしたい。</p>
議長	<p>基本的にその方向を目指していると信じています。</p> <p>多方面、多岐にわたる貴重な意見についてを、具体化できるところを反映していただきたいと思います。</p>
	<p>【報告事項】 (各担当課長より説明)</p>
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・CSF について、千葉県でも有害獣として捕獲されているイノシシのCSFの検査をしているのかどうか、聞きたい。 ・農業センサスの調査項目として、落花生の面積も入れていただいたが、今後、他の特産物も項目もお願いしたい。
畜産課長	<p>捕獲の強化地域、県境で捕獲されたイノシシについて、11月から検査を実施し、これまで50頭全て陰性であった。</p>
事務局	<p>農林業センサスの項目については、県独自項目として、毎回5項目を設定できることになっており、今後、調査の継続性も考慮しながら、他の特産物も含めて、検討していく。</p>
委員	<p>農業用廃プラスチックの処理料金の改定の議論について、台風第15号、19号、10月25日の大雨と甚大な被害があることを考慮して、更なる県の御努力をお願いしたい。要望で回答は不要です。</p>
委員	<p>・農業用廃棄プラスチックの処理料金は去年、4倍に値上がりしている。家電と同じように、事前にリサイクル料など徴収できる県条例ができるのであれば、検討してほしい。</p>

発 言 者	発 言 内 容
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 農業が儲からない状況の中、スマートというのはコストが高すぎ、補助金で導入しても、次の施策がなければ継続できないので、現場をみた施策立案をお願いしたい。回答は不要です。
事務局	(農業産出額について説明)
農林水産部長	(御礼の挨拶)
司会	(閉会)